自治会行事を通してつながりを深める

西益岡地区防災訓練

西益岡地区では、震度6弱の地震が発生したとの想定で、市営野球場駐車場に災害対策本部を設置。本部設置場所と一時避難場所を地区住民に知らせる広報訓練、自治会各班長が班内の住民の安否を確認する安否確認訓練が行われた後、本部設置場所で各ブロック長が確認結果を報告した。

その後、帰宅困難者や要援護者などの避難者を指定避難所である白石高等学校へ誘導し、避難所開設・運営訓練に参加したほか、炊き出し訓練などの独自訓練も行われた。

西益岡地区は平成17年に自治会の付属機関として自主防災会を設置。毎年テーマを決めさまざまな訓練を行っている。

訓練のほかにも、平成25年2月には、地区防災マップを赤い羽根募金などの助成を受け作成。地区内の全世帯と小中学校、医療機関に配布するとともに、活用を促すチラシを同時配布するなど、自治会・自主防災会役員が中心となって、地区で行われる各種行事などを通じて、地区住民の防災意識の向上を図っている。

Interview

訓練に参加した西益岡自治会の小山定男自治会長に感想などを伺った。

西益岡自治会長
小山（こやま）　定男（さだお）さん

西益岡自治会には課題がいくつかあります。

１つ目は、高齢者が多く、若い人たちにいかに訓練に参加してもらうのかということです。訓練に若い人たちを引きつける工夫が必要だと感じました。

２つ目は、今、私たちの自治会が一番気にしていることの１つで、安否確認をどのように行うかということです。今回の訓練では、手ぬぐいやタオルを玄関先の柱などに結び、タオルが結ばれていない家には班長が直接声を掛ける安否訓練を実施。住民の皆さんに呼び掛けたところ、約９割の人たちに協力してもらうことができました。今後は、この安否確認の方法を地区内に浸透させていきたいと考えています。

困った時に協力して何ができるのか。これからも、日ごろの自治会活動の中で話し合いを重ねながら地区民の命を守る活動を続け、いつ起こるか分からない災害に備えていくことが大切だと思います。

Interview

訓練に参加した南中学校の生徒に感想などを伺った。

南中学校３年　村上（むらかみ）　叶佳（きょうか）さん

私の班は、避難住民の受け入れや、案内の訓練を行いました。初めは、避難者を案内する時に表示をそれぞれ書いていたのですが、全体図を書いた方が良いと見直したことでスムーズに対応することができました。

震災の時は、私はまだ小学生で、先生の指示に従って行動していましたが、震災後は、自ら考えて行動するため、真剣に訓練に参加しています。

災害は突然やってきます。日ごろから非常時の行動を考えながら生活していくことが大切。そして、災害が起こった時は、地域の人たちとのつながりがより大切になると思うので、今回、地域の人たちと一緒に訓練できたことはとても良い経験になりました。

南中学校３年　佐藤（さとう）　結奈（ゆうな）さん

調理部で豚汁などを作りました。100人分を想定して作りましたが、普段作っている量とは違うため、その場で考えながら作りました。また、消火訓練では、「火を消すときは下から薬剤をかける」と教えられましたが、実際の現場に居合わせたら焦ってしまうだろうと感じました。

救急救命訓練では、ケガ人の手当ての方法などを学びました。震災の時は自分のことで精一杯で、周りの人たちのことを考えることができませんでした。もしケガ人がそばにいても、自分の自信のなさから手当てはできなかったかもしれません。訓練を通して技術を学んだので、この経験をいざという時に、生かしたいと思います。

地域の方々とのつながりは災害時だけでなく、日々の生活でもとても大切で、訓練を通して、地域の方々とのつながりを深められたのではないかと思います。

以前の私ならできなかったことでも、今回の訓練を経験した私にはできることがあると思います。ケガの手当て１つとっても、負傷者へ気配りを忘れずに対応することで、相手の安心につながっていくことも学びました。日ごろから、思いやりを持った行動を心掛け、災害時にもその思いを忘れずに、相手の心を軽くできるような応対ができればと思います。

南中学校３年　陽田（ようた）　悠正（はるま）さん

プライベートテント作りの班長でしたが、分からないことが多く、うまく指示ができませんでした。 訓練を繰り返して、いざという時に備えたいと思います。

これまでは、生徒たちだけの避難訓練で、地域の人たちと一緒ではなかったので、今回の訓練は良い経験になりました。

災害が起こったら、まずは周りを見て冷静に判断し、自分の命を守りたいと思っています。

南中学校３年　石川（いしかわ）　遼（りょう）さん

体育館で、間仕切りやプライベートテントの作成などを行いました。避難してきた人たちの気持ちを考え、できるだけ普段生活している家に近づけようと、みんなで考えました。それぞれが、次は何をしたら良いかを考えて行動していたので良かったと思います。

震災を経験するまでは、人ごとのように避難訓練などに参加していましたが、震災を経験し、人ごとではない、いつ、どんな時に起こるか分からないという思いで、災害時を意識しながら訓練に参加しました。地域の人たちと一緒に行った救急救命訓練では、やはり地域の方たちは知識も豊富でとても心強く感じました。卒業後、災害が起こった時に自分がどう行動するかは、正直分かりませんが、その時々で自分にできることがあると思うので、できることをやっていきたいと考えています。

南中学校３年　村上（むらかみ）　和輝（かずき）さん

今回の訓練では、電気とガスが使えないという設定で、かまどに火を起こしました。かまど班全員がケガなく無事に火を起こすことができて良かったです。電気とガスが使えない状況になったら、この経験を生かしたいと思います。

震災時はまだ小学生で、パニックになってしまいました。その体験から、震災以降は、大災害が起こるということを想定し、真剣に訓練に参加するようになりました。今回の訓練では、災害が起こった時に「自分に何ができるのか」を考えながら参加することができました。

救急救命訓練では、地域の人たちと一緒に骨折した人の手当ての方法やタンカの作成方法などを学び、地域の人たちが優しく声を掛けてくれました。中学校を卒業すると、学校と地域が一緒に行う訓練などは経験できなくなってしまうと思います。今回の訓練で得た貴重な経験を踏まえて、自分にできることをしっかり行動に移していきたいと思います。